

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	かぶしきがいしゃ でんとうげいのうおふいす		
	制作団体名	株式会社 伝統芸能オフィス		
	代表者職・氏名	代表取締役 中坪眞		団体ウェブサイトURL
		http://www.dentougeinou.com/		
	制作団体所在地	〒	221-0822	最寄駅(バス停)
		ひがしはくらく 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-15-2 パーソナルハイツ東白楽101		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	いっぽんしゃだんほうじん みやけきょうげんかい		
	公演団体名	一般社団法人 三宅狂言会		
	代表者職・氏名	代表理事 三宅右近(和泉流狂言方)		団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	176-0021	最寄駅(バス停)
		富士見台駅 東京都練馬区貫井3-22-3		
	制作団体 設立年月	昭和51年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 中坪眞 取締役 中坪一世		40名(落語家、狂言師、音楽家など) 制作スタッフ:13名 舞台スタッフ:10名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	中坪眞	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	中坪一世	
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号	
	<a href="mailto:nakashin@dentougeinou.com">nakashin@dentougeinou.com</a>		0468706061	

制作団体の実績	制作団体沿革・ 主な受賞歴	<p>●(株)伝統芸能オフィス(通称・日本伝統芸能を守る会)・沿革</p> <p>○昭和43年糸あやつり人形結城糸女子一座(ゆうきしめこ)沖縄公演(沖縄復帰以前)に</p> <p>○昭和47年全国の小中学高校の児童生徒対象に日本の伝統芸能(落語、能狂言、邦楽など)芸術鑑賞教室を始める。落語は学校寄席、わんぱく寄席で定着 狂言は和泉流、大蔵流で狂言鑑賞教室を全国展開。</p> <p>昭和51年4月 株式会社ナカシン設立。</p> <p>昭和64年 横浜博覧会、名古屋デザイン博、岐阜未来博の制作に携わる</p> <p>平成 8年 江戸東京博物館こけら落とし公演 芸能屋台村企画江戸芸能時空旅行「Back To The Edo ～バック・トゥ・ザ・江戸～」</p> <p>平成 9年 創立25周年を迎える</p> <p>平成11年 国際交流基金の派遣で中南米各国において「芸能屋台村」を公演</p> <p>平成12年 文化芸術祭「芸能屋台村」で参加</p> <p>平成14年1月 株式会社伝統芸能オフィスに社名変更 通称「日本伝統芸能を守る会」</p> <p>平成14年 国際交流基金派遣で三味線と和太鼓の公演(ごちえもん)</p> <p>平成23年 ILO(国際労働機関)京都会議へ狂言で参加</p> <p>令和 4年 創立50周年を迎える</p> <p>&lt;受賞歴&gt;</p> <p>平成16年 アフリカ民族音楽「アフリカンドリーム」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦</p> <p>平成19年 「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦</p> <p>平成25年5月「わんぱく寄席」厚生労働省社会審議会児童福祉文化財に推薦</p> <p>平成25年5月日本伝統芸能を守る会 長年にわたって 日本の伝統芸能を子どもたちに普及し、 児童の健全育成に貢献してきた活動にたいして 厚生労働省児童福祉文化財特別部門受賞</p> <p>令和4年12月 代表の中坪真が永年にわたり、子どもたちに伝統芸能を普及させてきた活動 に対して「文化庁長官表彰」受賞</p>
	学校等における 公演実績	<p>昭和47年より現在まで10000校以上 年間150校の学校での公演実績</p> <p>文化庁 平成17・18年「本物の舞台芸術体験事業」</p> <p>文化庁 平成20年21年22年「本物の舞台芸術体験事業」</p> <p>文化庁 平成23年「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」</p> <p>文化庁 平成25年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」</p> <p>文化庁 平成26年「次代を担う子供の文化芸術体験事業」</p> <p>文化庁 平成27年「文化芸術による子供の育成事業」</p> <p>文化庁 平成28年「文化芸術による子供の育成事業」</p> <p>文化庁 平成29年「文化芸術による子供の育成事業」</p> <p>文化庁 平成30年「文化芸術による子供の育成事業」</p> <p>文化庁 令和元年「文化芸術による子供育成総合事業」</p> <p>文化庁 令和2年「文化芸術による子供育成総合事業」</p> <p>文化庁 令和3年「文化芸術による子供育成総合事業」</p> <p>文化庁 令和4年「文化芸術による子供育成推進事業」</p> <p>文化庁 令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演」</p> <p>文化庁 令和6年度「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」</p> <p>文化庁 令和7年度「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」</p> <p>平成23年北区文化振興財団「親子で楽しむ狂言」</p>
	特別支援学校等にお ける公演実績	<p>北海道余市養護学校しりべし学園分校</p> <p>香川県立善通寺養護学校</p> <p>横須賀市立ろう学校</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=SrIThg-key4">https://www.youtube.com/watch?v=SrIThg-key4</a>
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: <input type="text"/> PW: <input type="text"/>

別添

あり

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	児童生徒が創り上げる 狂言「茸(くさびら)」			
企画のねらい	<p>この狂言「茸」の主役は児童・生徒達です。狂言師と子どもたちがワークショップでお稽古をし、本公演の舞台で出演者、児童・生徒、先生が共演します。また、主演の子どもたちだけでなく、観客の児童・生徒全員が公演に参加して世界に一つしかない舞台を創り上げます。</p> <p>お稽古の過程で、児童・生徒同士で教えたり教え合ったりしながら、お互いのコミュニケーション能力を高めることができ、一つの物事をやり遂げる達成感を得ることもできます。観客の児童・生徒は、自分の友だちや知り合いが舞台に出ていることで、より親近感がわき、狂言をもっと身近に感じることができます。</p> <p>最初は小さな声だった児童・生徒がお稽古を終えるころには、大きな声で自然とあいさつができるようになり、そのお稽古の様子を見ていた先生も狂言師の真剣なお稽古の様子を見て自然と背筋を伸ばして正座をしながら児童生徒の練習を見守っています。本公演では、児童・生徒は装束を身につけ、自分でつくった「面」をつけて舞台に登場します。自分で想像したオリジナルのキノコの面を作ることによって想像力と表現力を身につけることができます。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>1. 狂言の解説 はじめて狂言にふれる児童・生徒にわかりやすく狂言の解説を行います。</p> <p>2. 狂言鑑賞『盆山 ほんさん』 【あらすじ】 室町時代は「盆山(盆の上に岩を置いた置物)」が大流行。この盆山を一つも持っていない男が、ある夜、友達の屋敷に忍び込んで盗もうとします。ところが大きな物音を立ててしまい、あつという間に見つかってしまいます。盗人が顔見知りだと気づいた友達は大笑い。男を散々にからかってやろうと、色々な動物の鳴き真似をさせるのですが… 【特色】狂言の特色である、所作、セリフ、擬音など総てが盛り込まれた作品で、初めて狂言を鑑賞する人に適した演目。想像力を補いながら舞台を楽しむことができるシンプルながらわかりやすい演目です。 日本語の特徴である擬音(オノマトペ)がふんだんに使われているため、児童・生徒にもわかりやすい内容になっています。室町時代の擬音と今の擬音とは少し違っていることにも注目してみると、時代によって日本語が変化していることに気づけます。</p> <p>3. 狂言体験～1日狂言師～ より狂言に親しんでもらうために、狂言のセリフや擬音、動物の鳴き声などを全校生徒で体験していただきます。また、全員で謡『兎(うさぎ)』を大きな声で謡います。希望される場合は、謡にあわせて児童・生徒数名が兎のかわいらしい動きを表現しながら小舞を舞います。</p> <p>4. 狂言『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちと共演 【あらすじ】 とある屋敷に、夜な夜な生えてくる巨大キノコ。気味悪かったお屋敷の主人は霊験あらたかな山伏にお祓いの祈祷を依頼します。さっそく屋敷に赴いた山伏が怪しげな祈祷を始めると、無くなるどころか、どんどんキノコは増え続けます。走りまわるキノコ、イタズラを仕掛けるキノコ。屋敷中がキノコだらけになってしまい、必死になって祈る山伏を尻目に、とうとうおどろおどろしい鬼茸まで登場し…。 【特色】 狂言『茸』はたくさんの出演者が登場する「大勢狂言」の中のひとつで、和泉流では「茸(くさびら)」と表記しますが、大蔵流では、「菌(くさびら)」と表記するなど、とてもポピュラーな演目です。 今回の『茸』では、児童生徒12名が主役の茸役、先生が鬼茸役となって、狂言師との共演します。主演する児童・生徒だけでなく、観客の児童生徒全員で世界にひとつの舞台を創り上げます。  児童・生徒の表現するキノコが動き廻る姿は観客の笑いをさそい、表現することの面白さを味わうことができます。本物の狂言師が共演することは、多感な時期の児童・生徒にとってめったに得られることのない貴重な体験になり、狂言への興味や印象を一層深く残すものとなることでしょう。そしてこの舞台がきかっけとなり、将来の文化の担い手や、観客が増えることを期待しています。</p> <p>【演目選択理由】 狂言はユネスコ無形文化遺産の第一号として登録されており、伝承すべき日本の文化の一つです。「狂言」などの伝統芸能は難しいと思われていますが、順応性のある児童・生徒は、わからない言葉があっても役者の動きや表情を読み取って理解し、狂言独特の空気を自然と感じ取って楽しむ能力があります。今回は特に児童・生徒達にわかりやすい演目『盆山』と、児童・生徒と狂言師が共演して創り上げる『茸』の2つの演目を選びました。</p>			

本公演・ワークショップの内容

<b>児童・生徒の参加 または体験の形態</b>	<p>○狂言「茸」で狂言師と共演……事前ワークショップで狂言「茸」のお稽古をし、本公演で披露します。 ※ 狂言師は礼儀の仕方からはじまり、真剣に児童・生徒たちと向き合って指導します。 この共演で、一つのものを完成させるという目標のもと、指導者と児童・生徒が一丸となって稽古します。</p> <p>○ 全員参加—狂言の基本所作を学ぶ(礼儀作法、あいさつ) 狂言のセリフを実際に体験 狂言の謡「兎(うさぎ)」を謡う (希望者は小舞を披露)</p>					
<b>児童・生徒の 参加可能人数</b>	<b>本公演</b>		<b>参加・体験人数目安</b>	12名～全員		
<b>本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付</b>	<p>”第1部 1、狂言解説 ～狂言ってなんだろう?～ 2、狂言『盆山 ぼんさん』 3、狂言体験 ～私たちは1日狂言師～ +++++ 休 憩 (15分)+++++ 第2部 4、狂言『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちと共演 出演:三宅狂言会 キノコ役…児童生徒12名 鬼茸役…学校の先生</p> <p>※ 監修 振り付け……三宅右近(和泉流狂言方) ※ 企画原案 演出 脚本 構成……なかつぼ まこと”</p>		<b>鑑賞人数目安</b>	700名		
	公演時間	90 分				
<b>出演者</b>	三宅右矩／三宅近成／高澤祐介／前田晃一／吉川秀樹／河路雅義／大塚出／金田弘明など三宅狂言会(和泉流)から5名					
<b>演目の芸術上の中核 となる者(メインキャスト、 メインスタッフ、指揮者、 芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</b>	<p>三宅右矩……能楽師狂言方和泉流。1983年、重要無形文化財保持者・三宅右近の長男として生まれる。父に師事。祖父は人間国宝・故九世三宅藤九郎。3歳で初舞台「靱猿」に出演。2002年「三番叟」、2005年「釣狐」、2007年「金岡」、2009年「花子」といった秘曲、大曲を披く。</p> <p>三宅近成……能楽師狂言方と和泉流。1985年、重要無形文化財保持者・三宅右近の次男として生まれる。父に師事。祖父は人間国宝・故九世三宅藤九郎。3歳で「柑子俵」にて初舞台に出演して以来、「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」といった秘曲、大曲を披く。</p> <p>高澤祐介……重要無形文化財保持者(総合認定)</p> <p>前田晃一……重要無形文化財保持者(総合認定)</p>					
<b>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む</b>	<b>出演者:</b>	5 名	<b>運搬</b>	<b>積載量:</b>	1 t	
	<b>スタッフ:</b>	4 名		<b>車 長:</b>	5.31 m	
	<b>合 計:</b>	9 名		<b>台 数:</b>	2 台	
<b>本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安</b>	<b>前日仕込</b>		<b>前日仕込所要時間</b>		時間程度	
	<b>到着</b>	<b>仕込</b>	<b>上演</b>	<b>内休憩</b>	<b>撤去</b>	
	8:30	9:00-11:00	13:30-15:00	15	15:00-17:00	
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。					
<b>本公演 実施可能日数 目安</b>  ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月	7月	8月	9月		
	15日	15日	0日	15日		
	10月	11月	12月	1月		
	15日	15日	20日	19日		
	<b>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</b>			計	114日	

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)



1 (1) 体育館のフロアに舞台を設置した状態。児童・生徒さんたちは間近で舞台をお楽しみいただけます。体育館が狭い場合などは相談しながら臨機応変に対応させていただきます。



- (2) 舞台の裏側を「葺」役の児童・生徒が着替える楽屋として使用します。公演前に、共演者と挨拶を交わして本番に臨みます。
- (3) 「葺」役の児童・生徒が舞台へ登場するシーン。
- (4) 狂言「葺」公演の様子。児童・生徒と出演者が本物の舞台上で共演します。



※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式

著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否		該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

ワークショップの  
ねらい

ワークショップの内容

<事前ワークショップのねらい>

「自分たちで一つの作品を作り上げる」

この舞台の主役は、児童生徒と先生自身です。鬼茸を先生が演じ、児童生徒が主役となって、実際の舞台で演じるところに大きな特色があります。

狂言では、お客様に楽しんでもらうために、きびしい稽古を重ねて舞台に出ます。体験する児童・生徒には、一つのことに取り組むことの大切さ、うまくできたときの達成感などを感じていただき、今後何かをやり遂げる時には、この経験を思い出して一つのことをやり遂げる力をつけてもらいたいと思います。

「演技力、表現力を磨く」

児童生徒が演じるキノコはさまざま。ちょこちょこ可愛らしい動きの子のキノコや、しっかりした動きのキノコ。鬼茸役の先生の怖くも威厳のある動き。それぞれ個性的なキノコたちが舞台の上で動き回り、創造性や演じる力を高めることができます。

「共演で得られるもの」

各学年から参加児童・生徒がそれぞれ集まり一つのことをやり遂げる。すると、参加児童同士が自主的に教え合い、高学年の児童が低学年の児童をフォローするなどコミュニケーションが生まれます。また自分自身の個性を磨くだけでなく、他の人の動きを観察して、自分との違いを研究するなど自分を客観視することもできます。お互い協力して舞台を作り上げることで、チームとしての団結力が深まるばかりではなく、他の人よりも、もっと大きな声を出そうなどの、いい意味での対抗意識が生まれ、物事に取り組む意欲が高まる効果があります。

指導者は児童生徒と真剣に取り組みます。児童生徒はその期待に答えようと一生懸命取り組んで、お互いの信頼関係が築き上げられます。このことは、学習指導要領の特別活動の項目にあてはまります。

「想像力・製作力が高まる」

自分の想像力を駆使して、キノコの「面」をつくります。児童生徒の自由な発想でデザインしたものは面白く、舞台をより一層豊かにさせることができ、児童・生徒それぞれの個性を表現する力が高まります。先生、友達、家族の方々と話し合いながらオリジナルの「面」づくりを楽しみながら作成しましょう。

※ 説明書はあくまでも作り方の一例としてお渡しします。作る素材も自由に考えさせることで面白いものが出来上がります。(児童生徒の自由な発想を大事に)

<本公演>

「狂言の楽しさを全員で体験する」

児童生徒に、実際の狂言の舞台を体験してもらうことで、表現力、想像力を豊かにし、伝統芸能をより身近に感じることができます。稽古の前にはきちんと狂言師とお辞儀をしてお稽古に臨みます。

みんなであうたう、狂言の「謡(うたい)」には、室町時代のことばがそのまま傳承されており、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができます。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	12名～(ご希望の場合は全校生徒も可能です。) ※茸役12名+先生1名 謡『兎』を謡う(全校生徒)
<p style="text-align: center;"><b>ワークショップ 実施形態及び内容</b></p>	<p>ワークショップは次のパターンからご選択いただけます</p> <p>その1 キノコ役12名+鬼茸役先生1名参加………狂言『茸』のお稽古(90分) 詳細は別添へ</p> <p>その2 クラスで参加 キノコ役12名+鬼茸役先生1名………狂言『茸』のお稽古(90分) その他の児童 ……………謡『兎(うさぎ)』のお稽古(45分)</p> <p>その3 全校児童・生徒参加 全校児童・生徒参加……………午前中 みんなで楽しむ狂言体験(午前中45分) キノコ役12名+鬼茸役先生1名………午後 狂言『茸』のお稽古(90分)</p> <p>みんなで楽しむ狂言教室</p> <p>1, はじまりのあいさつ まずは狂言師と児童生徒がお互いあいさつをして狂言教室の時間がはじまります</p> <p>2, みんなで狂言体験をしよう 狂言の歴史、成り立ちなどを簡単に解説したあと、 狂言のかまえ(姿勢)、すり足(歩き方)、発声(大声で大笑い)など 狂言の基本所作を全員で一緒に行います</p> <p>3, 狂言の謡「兎(うさぎ)」を全員で謡い、舞います。 数名(3人～20人)の立候補の児童生徒がいれば、 本公演では狂言の他に舞の発表もしていただけます。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>その他ワークショップに 関する特記事項等</b></p>	<p>(5)「茸」の練習について 体育館のフロアでキノコ役の動きを練習します。しゃがんだ格好のままフロア内を動き廻りますので 体操着など動きやすい服装(スカート不可)で行います。 鬼茸(おにたけ)役の先生も一緒に練習します。※その他の詳細は別添へ</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添

なし

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

## 記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。  
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。  
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。  
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件	<b>(必須)</b>	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。			
	会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量	30 A以上
	舞台設置面積	間口	12 m	奥行	9 m
		高さ	0 m		
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	条件が合えば可
	搬入間口の広さ	幅	2 m	高さ	2 m
	遮光の要否	5割程度必要		緞帳の要否	有無のみ確認したい
	ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定	
				ピアノを使用しない場合の移動の要否	要
	搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	30 m以内
	搬入車両の種類	ハイエース		台数	2 台
	搬入車両の大きさ	車幅	2 m	車長	5 m
	備考				

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

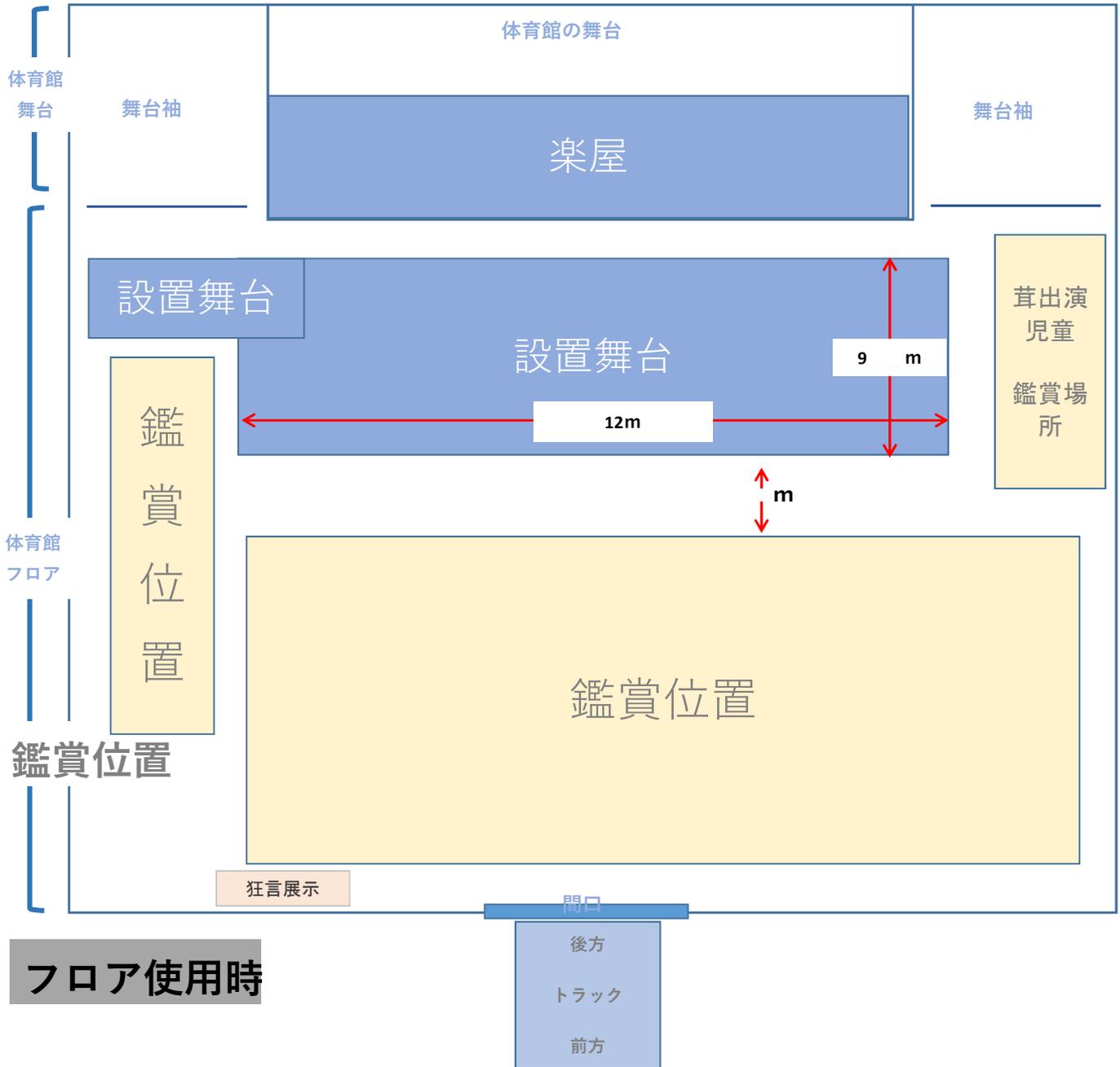
学校からの情報	<b>(任意)</b>	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。		
	会場図面の提出要否	要		
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)			

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	60分程度	放課後など	草の動きの練習	
ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒		放課後などや家	面の作成	面は紙をのりで固めて作るので乾かす時間が必要です。	
本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	30分程度	11:00ごろ	リハーサル		
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
	個別ヒアリング事項		
	1		
	2		
3			

(任意) 会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。  
 ※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面



別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人 三宅狂言会 】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

**【本事業を通じて実現したいこと】**

演者として参加した児童生徒には、お稽古を通して舞台に臨むことの大変さや、役柄を表現することの楽しさを体験してもらいます。また、共演する先生や仲間との協力やコミュニケーションの大切さを学び、壁にぶつかったときには、この経験を思い出し、一つのことをやり遂げる力を日常生活にも活かしてもらいたいと考えています。

一方で、観客として狂言を鑑賞する児童生徒には、演者の息づかいや生の声、学校の体育館に作られた本格的な舞台を見てもらい、伝統芸能の迫力とおもしろさを体感してもらいます。その体験を通じて、将来の芸の担い手として、あるいは観客として伝統芸能を支えていく存在となつてほしいと願っています。

児童生徒たちが舞台に参加することで狂言を身近に感じてもらい、厳かでむずかしいという狂言のイメージを払拭することができます。この取り組みを通じて、狂言の魅力を広く知ってもらい、やがては世界へとひろげていききっかけとなることを目指しています。

**【上記の実現に向けて、実施の工夫】**

まず、演者として参加する児童生徒には、挨拶の大切さを伝え、指導者と児童生徒さんたちがお互いを尊重しながらお稽古を行います。さらに、本物の装束を身にまとい、自ら表現する面を作成して舞台に臨むことで、自己表現力を育みます。  
観客として参加する児童生徒には、狂言の面白さをわかりやすく解説し、動物の鳴きまねや狂言特有のしぐさ・姿勢を体験してもらうことで、より身近に感じられる工夫をしています。

上演演目については、狂言の基本が凝縮された「盆山」を中心に選定し、さらに「茸」では、児童生徒自身や身近な先生方が出演することで、自然と「狂言は楽しいもの」という認識をもってもらえるよう配慮します。

これらの工夫を通じて、児童生徒が主体的に舞台を体験し、観客としても伝統芸能の魅力を身近に感じられる環境を整えます。

**【学校との連絡調整について】**

実施にあたり、学校との連絡調整を十分に行います。具体的には、担当の先生と事前に趣旨を共有し、学校行事や授業時間との調整を図ります。その際、日時や対象学年、所要時間、必要な準備物を明確に提示し、学校側の負担が最小限となるよう配慮します。

また、実施までの進行管理を共有し、定期的に連絡・確認を行うことで、当日の円滑な運営を確保します。さらに、装束や舞台道具を扱う際の安全面についても学校と協議し、安心して参加できる環境を整えます。

これらの調整を通じて、学校教育の一環として位置づけられる活動となるよう努めます。

**【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】**

低学年の児童には、難しい専門用語を避け、身近な動物の鳴きまねや簡単な所作の体験を中心とすることで、楽しく参加できるようにします。中・高学年、中学生については、台詞や役柄の背景についても理解を深められるよう解説を加え、より主体的に表現活動に取り組める工夫を行います。

また、舞台に立つ際には、安全指導を行い、安心して参加できる環境を整えます。発表や表現に不安を感じる児童生徒に対しては、練習段階から励ましや役割の調整を行い、誰もが無理なく取り組めるよう留意します。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

本事業への応募理由等

**【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】**

今までにいただいた児童・生徒の感想文からは、狂言の体験が一過性の楽しさにとどまらず、今後につながる学びとなっていることがうかがえます。

舞台を鑑賞した子どもたちは、狂言の楽しさだけでなく、役者の声の力強さや、日頃の厳しい稽古があるからこそ舞台が成り立つことを実感し、芸の世界に対する新しい視点を得ました。

実際に練習・出演した生徒からは、  
「笑ってもらえると嬉しいと考えたら、練習も楽しくなり集中できた」  
「自分こんなに声が出せるのだと気づき、これからもっと大きな声を出そうと思った」  
といった声があり、自分の成長に気づくとともに、その経験を日常生活や他の学びに生かそうとする姿勢が育まれています。

このように、狂言の体験を通じて「努力の積み重ねの大切さ」「表現することの喜び」「自分の可能性への自覚」といった気づきが得られ、それが児童・生徒の継続的な学びにつながっています。



第1部

1、狂言の解説 ～狂言ってなんだろう?～

初めて狂言、伝統芸能の世界に触れる児童生徒のために、簡単な歴史や、能舞台のしくみ、役割、狂言の衣裳、装束(しょうぞく)、狂言独特の演出方法などを実演をまじえながらわかりやすく解説します

2、狂言「盆山 ほんざん」

狂言「盆山」は狂言で表現される基本的な所作(足、手、腰の動き)、セリフ、擬音などの特徴がふんだんに盛り込まれております。



狂言の特徴

- 名乗り……「このあたりの者でござる」など名乗り、自分が何者かを観客に知らせます
- 道行き……セリフを言いながら能舞台の柱に沿って三角に歩き目的地まで向かう様子
- 擬音……垣根をのこぎりで切る音、垣根を破る音や動物の鳴き真似をする様子など

盆山を見た後は、狂言「茸」に出演する児童生徒をみんなで送ります

狂言「茸」に狂言師として出演する代表の児童生徒たちが、装束(狂言の衣裳)に着替えるために楽屋へ移動します。みんなで声援をおくりましょう!

演目概要  
・演目選択理由

3、狂言の体験～私たちも一日狂言師～



◀よろしくおねがいしますとみんなであいさつ  
心が引き締まります。

全員参加ワークショップ

- 狂言の基本所作(動き)を学ぶ
- 狂言に出てくる擬音の世界
- みんなで謡い(うたい)を謡おう



こんなこともやりました 小規模校の場合など

事前ワークショップで、「茸」のお稽古の他に、謡いと小舞を練習して本公演で披露したこともありました。



第2部 4、狂言「茸くさびら」～大勢狂言～

出演前の様子

児童生徒たちは、狂言の本物の装束(衣裳)を身につけます。  
はじめて着る装束に子どもたちの気持ちも高まります。自分たちが想像して作成した面と笠をつけて舞台にたつこの瞬間は、この舞台でしか味わえない一生の思い出に残ることでしょう。



1. 出演者が狂言の装束を着付けながら、児童・生徒達に言葉をかけて緊張をほぐしていきます
2. 自分達でつくった面(おもて)を付け準備万端
3. 先生が鬼茸として参加するので心強い!
4. 本番前、舞台裏の隙間から観客の様子を伺う
5. これから本番。まずは共演者としての挨拶を交わして舞台へ臨みます

演目概要  
・演目選択理由

登場人物

児童・生徒12名が主役のキノコ役として出演

面(おもて)  
自分たちで作成した「面」をつけて登場!キノコの独特の不思議な世界を演出します

装束  
本格的な狂言の装束を身につけ舞台を華やかに彩ります

茸(くさびら) 児童・生徒12名

鬼茸(おにたけ) 先生

主人 狂言師

山伏 狂言師

本公演の様子



「ポーロンポーロン」と山伏が祈祷を唱えますが どんどんキノコがふえてゆきます 祈祷がやむとびたっと動きをとめるキノコたち



クライマックスでは鬼茸が出てきて……

公演終了後のカーテンコールで登場した児童・生徒達の紹介をします。最後にみんなで記念撮影。忘れられない思い出が残ります

### 狂言「茸」のキノコ役・鬼茸役の稽古

まずは足袋を履いてお稽古します。  
最近では足袋を履く機会がほとんどないので、履くことにも一苦労します。  
これも経験のひとつです。



礼にはじまり、礼に終わる。まずはあいさつして稽古にのぞみます。



茸(くさびら)の動き方の練習。舞台一杯にキノコ達が動き回り狂言師のセリフにあわせてビタッと動きをとめます。



鬼茸役の先生の練習  
「どっつかもお〜」というセリフを  
大きな声を出して言う練習をします

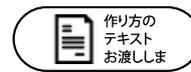
体育館のフロアでキノコ役の動きを練習します。

しゃがんだ格好のままフロア内を動き廻りますので体操着など動きやすい服装(スカート不可)で行います。

鬼茸(おこたけ)役の先生も一緒に練習します。

#### ワークショップ終了後、各自本番までの宿題

本番で使用するキノコ役の面を創作!



ワークショップ終了後、本公演までに舞台出演時に身につける面をオリジナルで作成します。

児童生徒が想像を膨らませて作成した、世界に一つしかない狂言面を作り、狂言の舞台に挑みます。

材料の一部はこちらでご用意いたします。



ワークショップの実施形  
態・内容